

## 日常検査にとりいれよう！－腹部ATI&循環器GLS－

座長 片山 沙予子（福山市民病院）

演者 中迫 祐平（広島赤十字・原爆病院）  
有吉 亨（山口大学医学部附属病院）

### 日常検査にとりいれよう！－腹部ATI&循環器GLS－

◎中迫 祐平<sup>1)</sup>、中司 恵<sup>1)</sup>、浅野 清司<sup>1)</sup>、米田 登志男<sup>1)</sup>、森 奈美<sup>2)</sup>、高木 慎太郎<sup>2)</sup>、辻 恵二<sup>2)</sup>、古川 善也<sup>2)</sup>  
広島赤十字・原爆病院 検査部 生理学検査課<sup>1)</sup>、広島赤十字・原爆病院 消化器内科<sup>2)</sup>

近年、医学的にも社会的にも肥満、糖尿病、高血圧、脂質代謝異常などの増加を背景に、高頻度に合併する脂肪肝への注目が集まっている。通常、腹部超音波検査Bモード所見でも診断は容易であるが、肝細胞の脂肪化が軽度（特に30%以下）の場合は発見できないことも少なくない。組織内の超音波減衰係数を映像化する技術Attenuation Imaging(ATI)の登場により、肝脂肪化を定量的に評価することが可能となった。今回の企画ではATIについての基礎を解説する。

### 日常検査にとりいれよう！－腹部ATI&循環器GLS－

スペックルトラッキング法で何がわかるの？

◎有吉 亨<sup>1)</sup>  
山口大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

近年、超音波診断装置の進歩により、スペックルトラッキング法が心エコー図検査の新たな診断ツールとして実臨床で利用されている。スペックルトラッキング法を用いると視覚では観察が難しい心臓の微細な動きや、早期に低下することが知られている心臓の長軸方向の伸縮（GLS）を数値化することが可能となった。本セッションでは、心臓スペックルトラッキング法の簡単な原理とその有用性について症例を交えながら解説する。